

2023年3月期

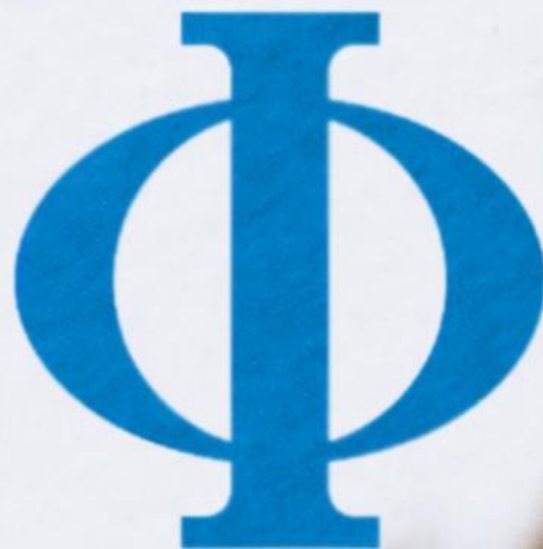
決算説明会 連結

株式会社フコク(東証プライム:5185)

2023年5月23日

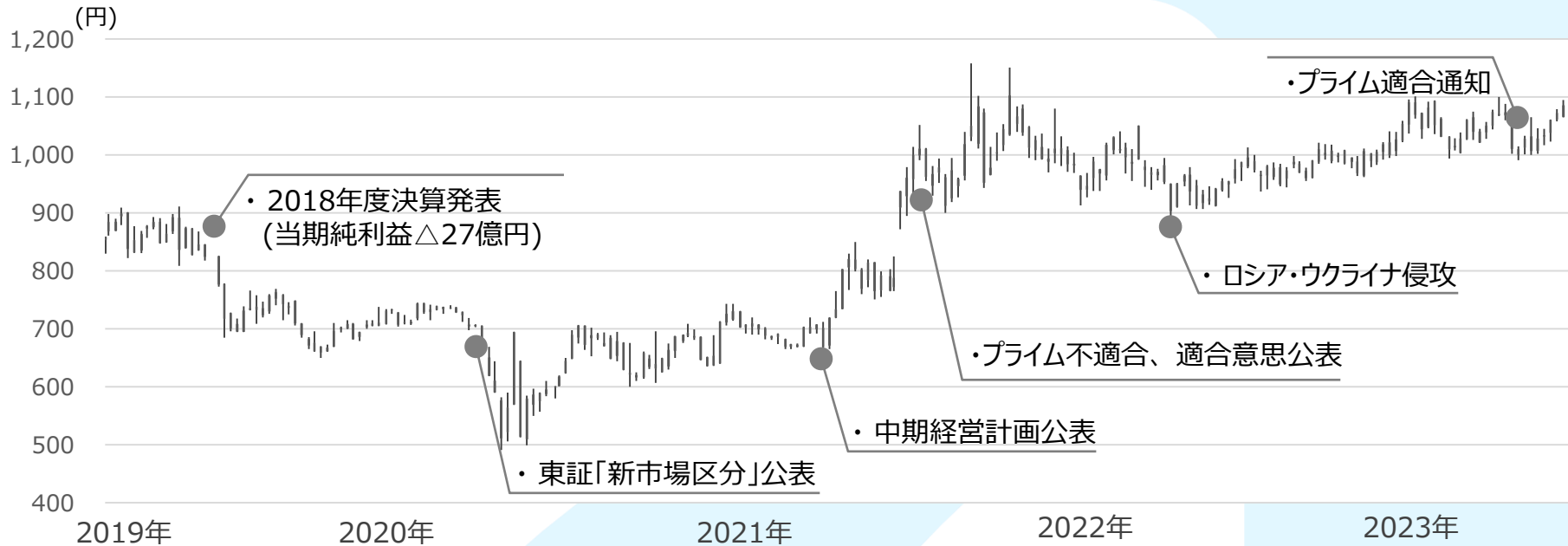
ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ
今までに無い価値を提案していきます



振り返り

当社株価推移



		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
とまじり	社外		・新型コロナウイルス感染拡大	・半導体不足に伴う車両減産	・米中対立激化 ・ロシアによるウクライナ侵攻	・コロナ5類へ(5月)
	社内	・決算発表(5月) 当期純利益△27億円	・経営改革「体質改善」 ・コロナ対応生き残り作戦 ・中計策定	・中計公表(2月) ・プライム不適合通知、 適合に向けた意思公表(7月)	・原材料高騰、燃料高騰対応 ・価格転嫁含む変動対応強化	・東証プライム 基準充足
株式関連	平均株価	764円	660円	902円	988円	1,046円 1/4～5/22平均
	流通株式 時価総額 <small>(※)</small>	58億円	75億円	108億円	117億円	-

(※) 当該事業年度末の株式状況及び事業年度末直近3カ月間の平均株価にて算出

Agenda

1. 決算のポイント
2. 2023年3月期実績
3. 2024年3月期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 中期経営計画の進捗
6. プライム市場上場維持基準の適合進捗
7. 株主還元

1. 決算のポイント

1. 決算のポイント

2023年3月期実績

自動車メーカーの生産調整、原材料費や輸送費、燃料費の上昇等の影響を受けたが、合理化や販売価格への転嫁、円安の影響による円換算時の収益増により **増収・増益**

2024年3月期予想

半導体供給不足、ロシア・ウクライナ情勢並びにこれに伴う世界的な為替変動及び物価高騰の影響がしばらく続く一方、新型コロナウイルス感染症の収束による経済活動の復調を想定
生産工程の合理化、不良低減、変動対応等の更なる採算改善努力の継続により **増収・増益**

配当

2023年3月期の期末配当金は23円、中間配当金27円と合わせた年間配当金は50円

2024年3月期の年間配当金予想は55円（前年比+5円）を計画

2. 2023年3月期実績

2. 2023年3月期実績

業績概要（連結）

（単位：百万円）

	2022年 3月期	2023年 3月期	増減額	増減率
	実績	実績		
売上高	71,504	82,318	+10,814	+15.1%
営業利益 (売上高対営業利益率)	1,749 (2.4%)	2,010 (2.4%)	+261 (+0.0pp)	+14.9%
経常利益 (売上高対経常利益率)	2,522 (3.5%)	3,139 (3.8%)	+617 (+0.3pp)	+24.4%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,084 (2.9%)	2,135 (2.5%)	+51 (-0.4pp)	+2.4%

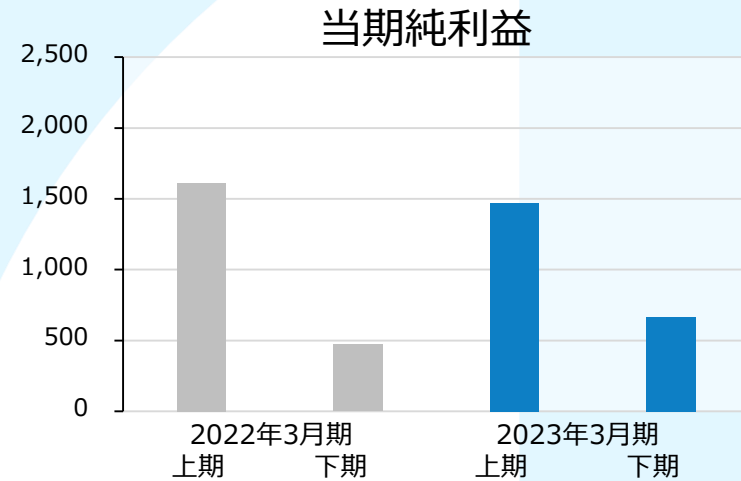
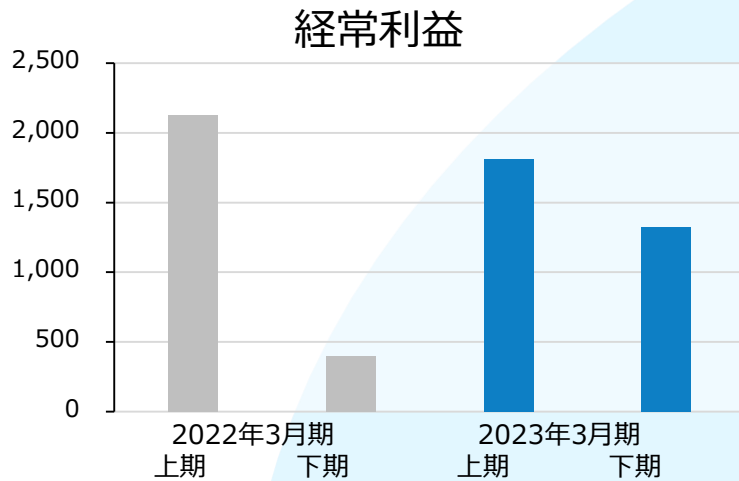
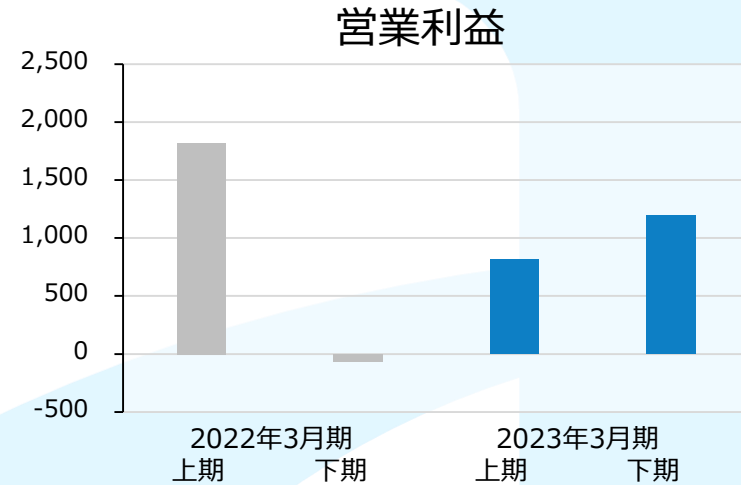
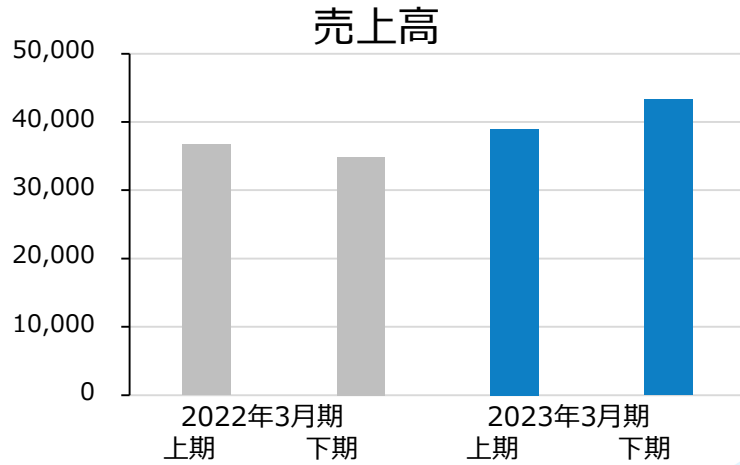
※「収益認識に関する会計基準」等を前連結会計年度の期首から適用済み
 ※pp=パーセンテージポイント

原材料費高騰等の影響を、合理化・販売価格への転嫁等で吸収し増益

2. 2023年3月期実績

経営実績推移 (連結・半期)

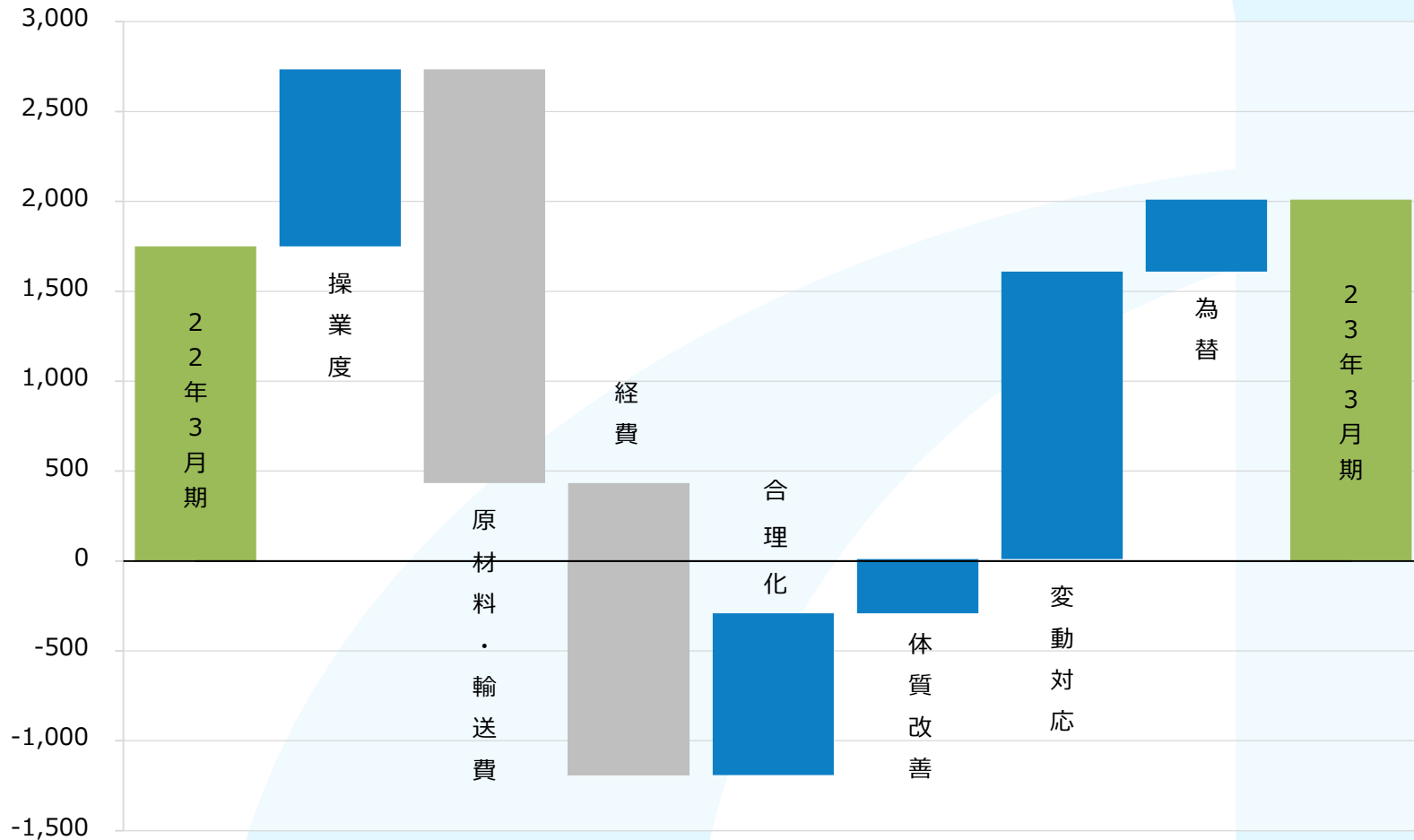
(単位：百万円)



2. 2023年3月期実績

差異要因_連結営業利益（前年比）

(単位：百万円)



2. 2023年3月期実績

財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

（単位：百万円）

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減額
現金及び預金	9,301	9,972	670
受取債権	17,394	19,731	2,337
棚卸資産	9,605	11,054	1,448
その他流動資産	1,443	1,770	326
流動資産計	37,744	42,528	4,783
有形固定資産	24,753	25,896	1,142
その他固定資産	2,541	3,105	564
固定資産計	27,294	29,001	1,706
資産計	65,039	71,530	6,490
借入金	10,930	12,979	2,049
支払債務	9,926	11,342	1,415
その他流動固定負債	9,805	9,255	△ 549
負債計	30,662	33,577	2,915
株主資本計	31,106	32,534	1,428
非支配持分	2,152	2,333	180
その他	1,117	3,084	1,966
純資産計	34,377	37,952	3,575
負債・純資産計	65,039	71,530	6,490

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績
税前利益	2,553	3,511
減価償却費	4,369	4,471
売上債権の増(△)減(+)	2,080	△ 1,572
棚卸資産の増(△)減(+)	△ 2,004	△ 876
仕入債務の増(+)減(△)	△ 329	971
その他	△ 1,325	△ 2,990
営業活動によるC F	5,344	3,515
有形固定資産の取得	△ 2,772	△ 4,103
その他	△ 73	114
投資活動によるC F	△ 2,846	△ 3,988
借入れによる収入	2,150	4,104
借入金の返済による支出	△ 3,512	△ 2,527
その他	△ 1,452	△ 823
財務活動によるC F	△ 2,815	753
フリー・キャッシュ・フロー	2,498	△ 473

■ 円安下での為替換算の影響により受取債権、棚卸資産が増加

■ 設備投資により生産合理化を進める

3. 2024年3月期業績予想

3. 2024年3月期業績予想

業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2023年 3月期	2024年 3月期	増減額	増減率
	実績	予想		
売上高	82,318	88,000	+5,682	+6.9%
営業利益 (売上高対営業利益率)	2,010 (2.4%)	3,900 (4.4%)	+1,890 (+2.0pp)	+94.0%
経常利益 (売上高対経常利益率)	3,139 (3.8%)	4,000 (4.5%)	+861 (+0.7pp)	+27.4%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,135 (2.5%)	2,900 (3.2%)	+765 (+0.8pp)	+35.8%

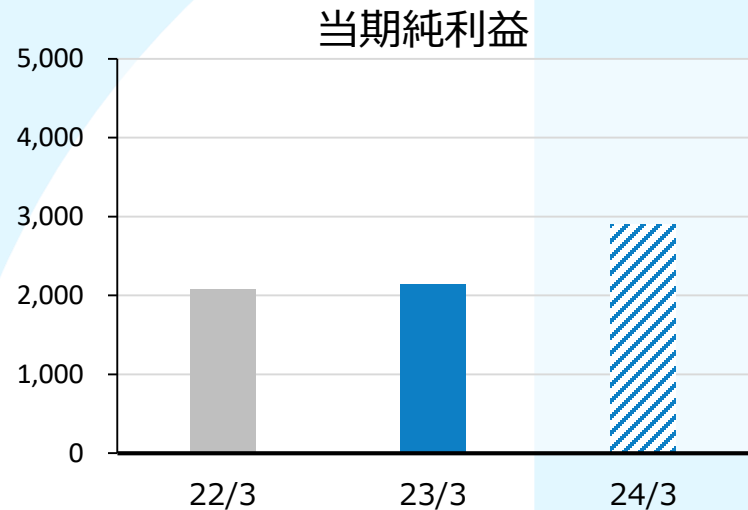
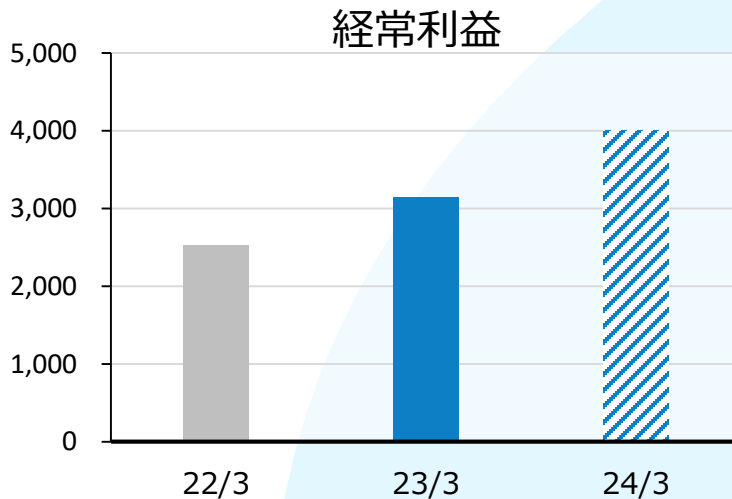
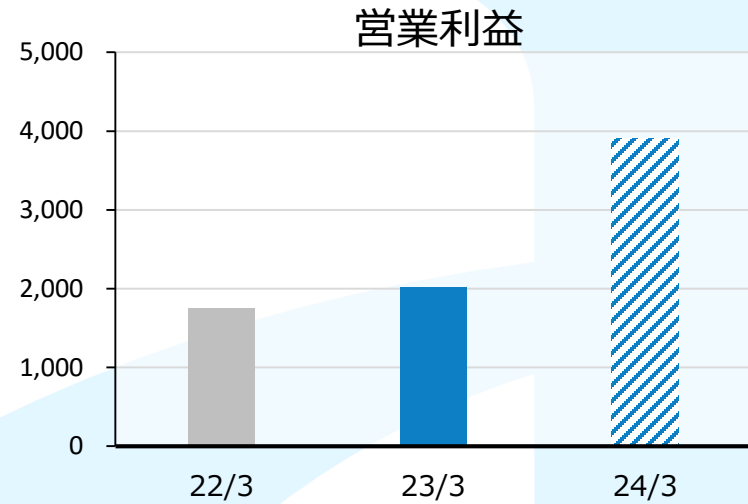
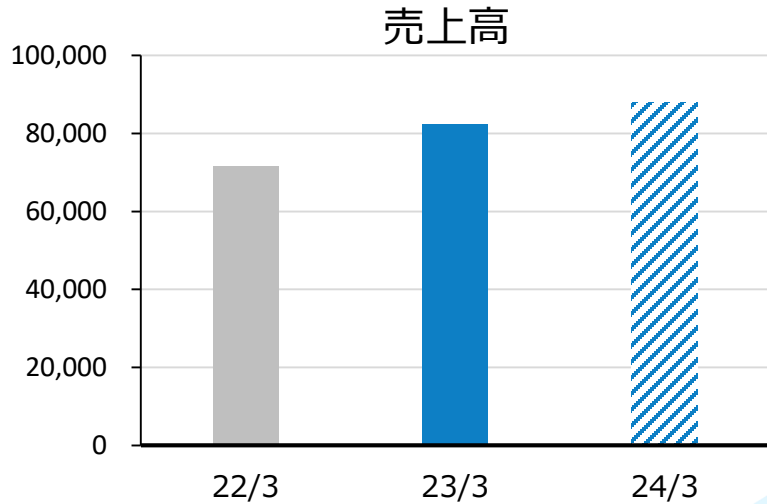
※pp=パーセンテージポイント

受注回復、生産工程の合理化や原材料価格等の変動対応により、増収・増益を計画

3. 2024年3月期業績予想

経営予想推移 (連結)

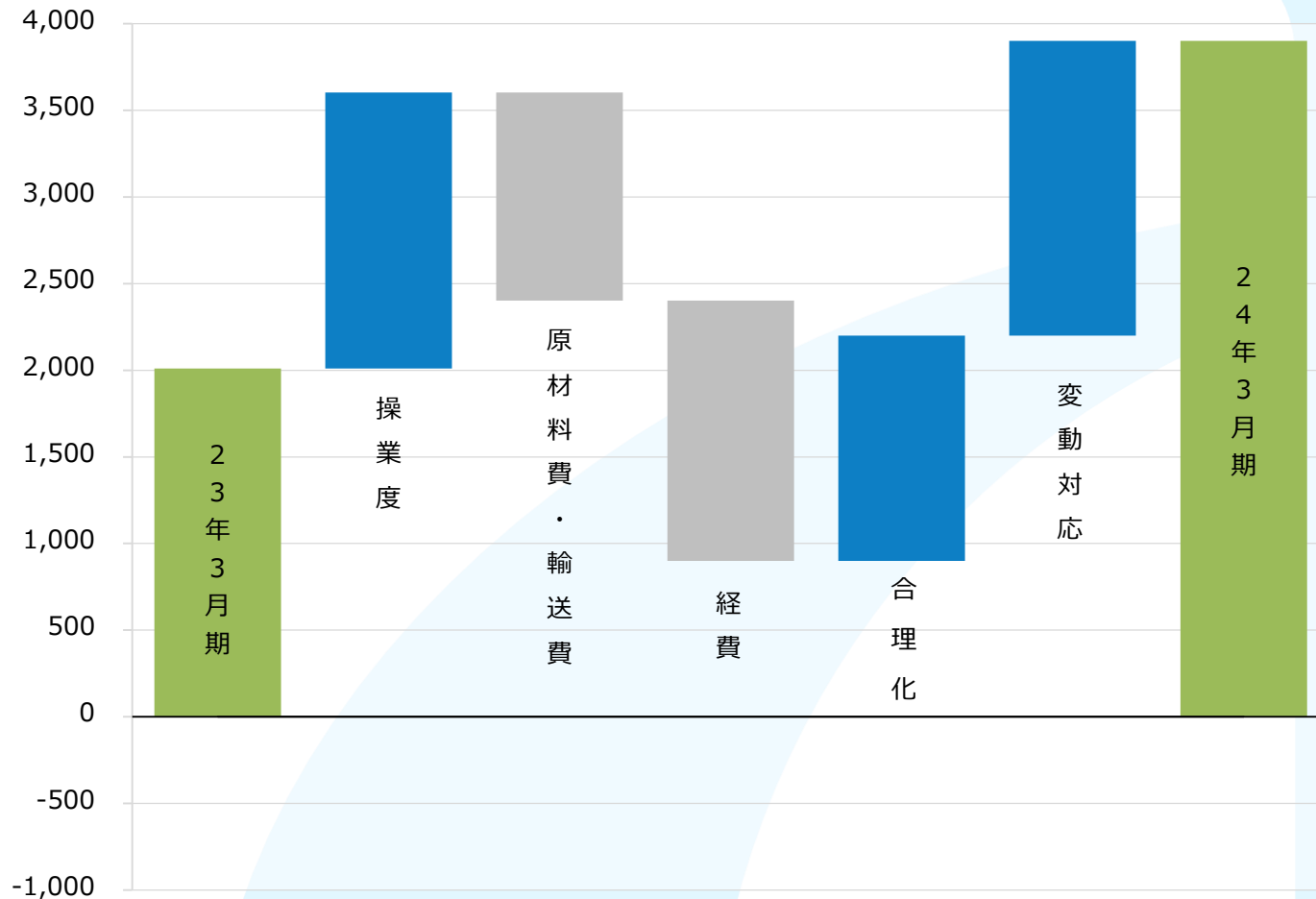
(単位：百万円)



3. 2024年3月期業績予想

差異要因_連結営業利益（前年比）

(単位：百万円)



4. セグメント別・地域別の状況

4. セグメント別・地域別の状況

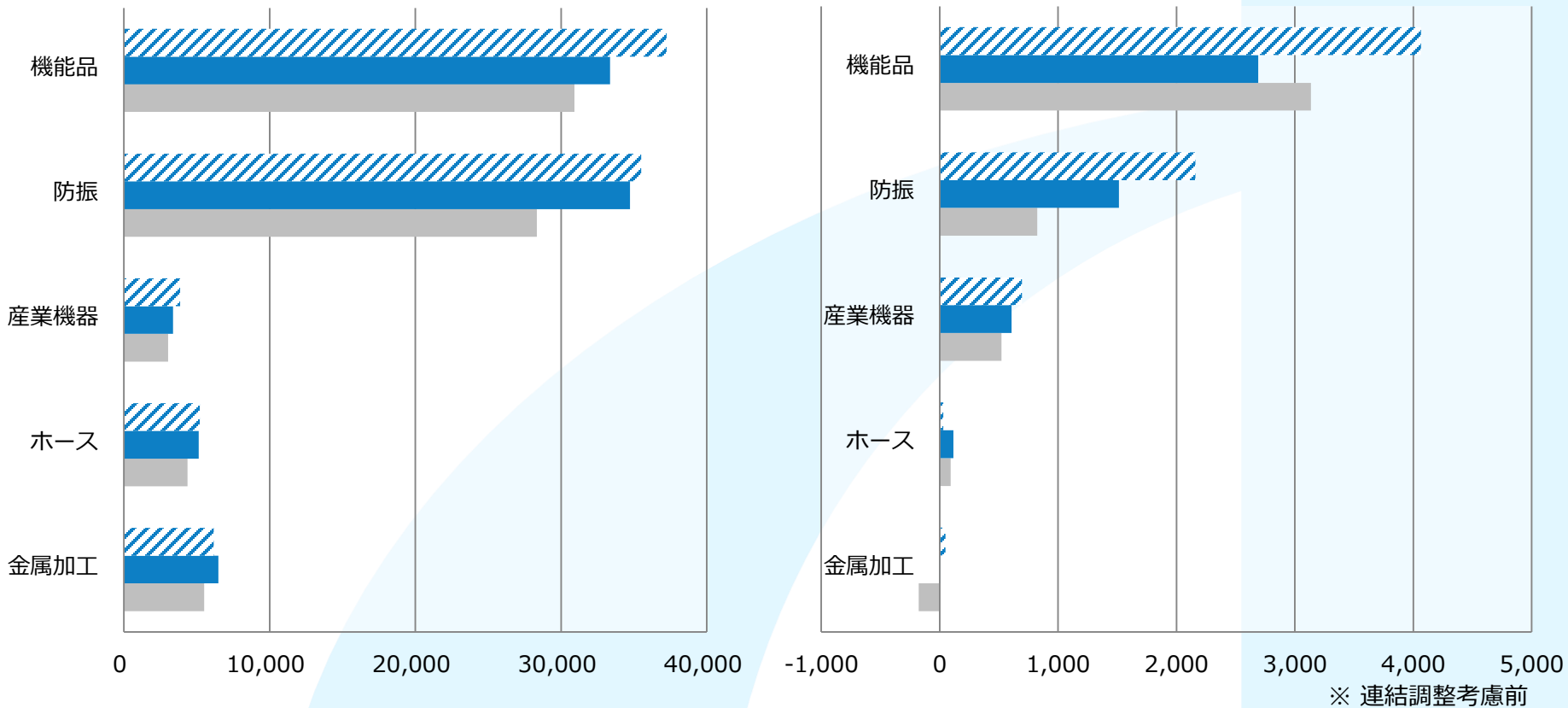
セグメント別

▨ 2024年3月期
■ 2023年3月期
■ 2022年3月期

(単位：百万円)

売上高

営業利益



※ 連結調整考慮前

23年3月期は全セグメントで黒字化達成、来期以降も継続して黒字を計画

4. セグメント別・地域別の状況

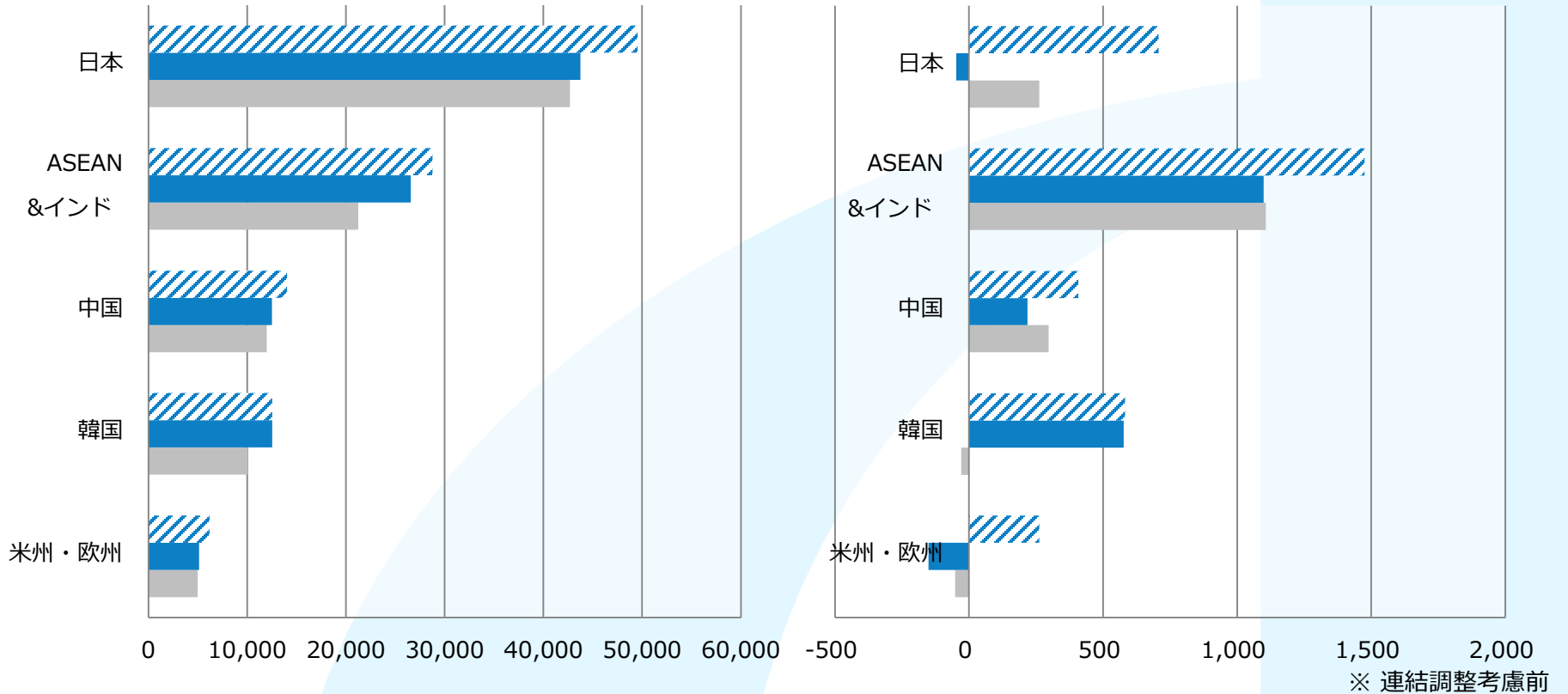
地域別

- 2024年3月期
- 2023年3月期
- 2022年3月期

(単位：百万円)

売上高

営業利益



24年3月期は全地域における黒字化を計画

5. 中期経営計画の進捗 (2022年3月期-2024年3月期)

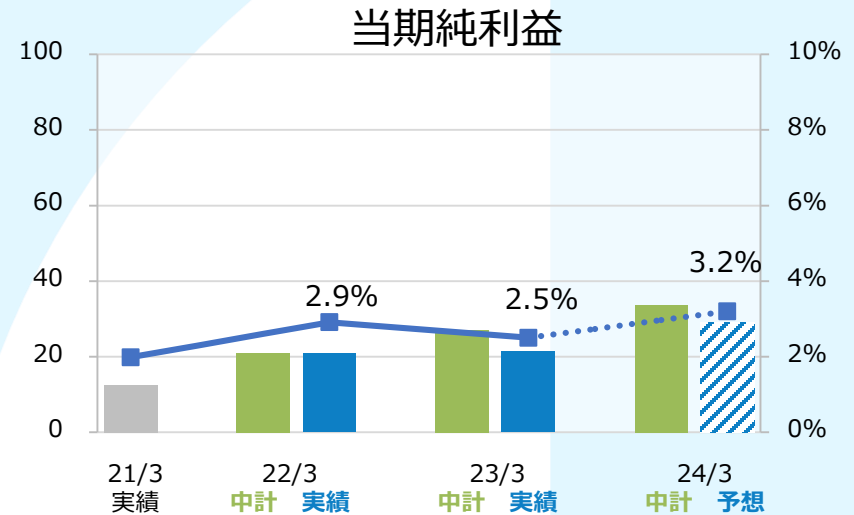
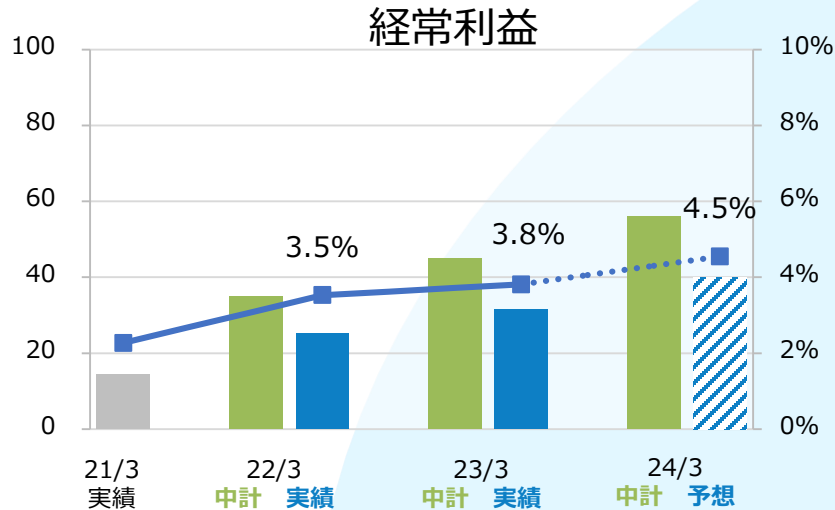
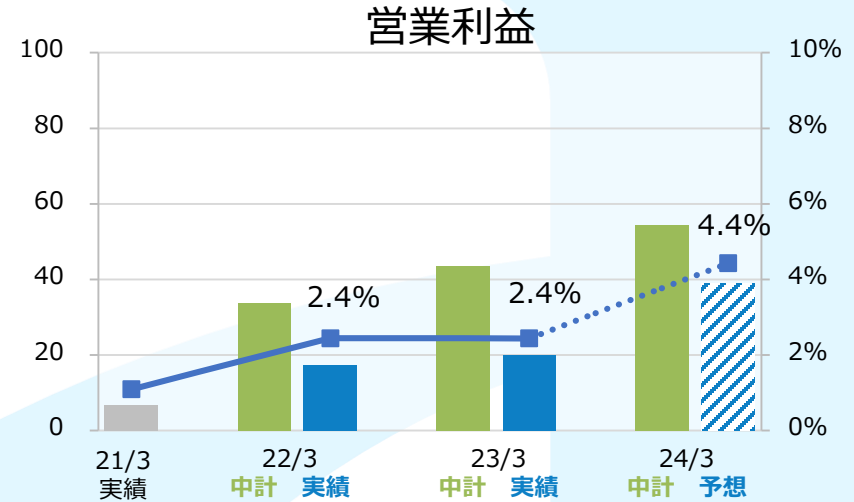
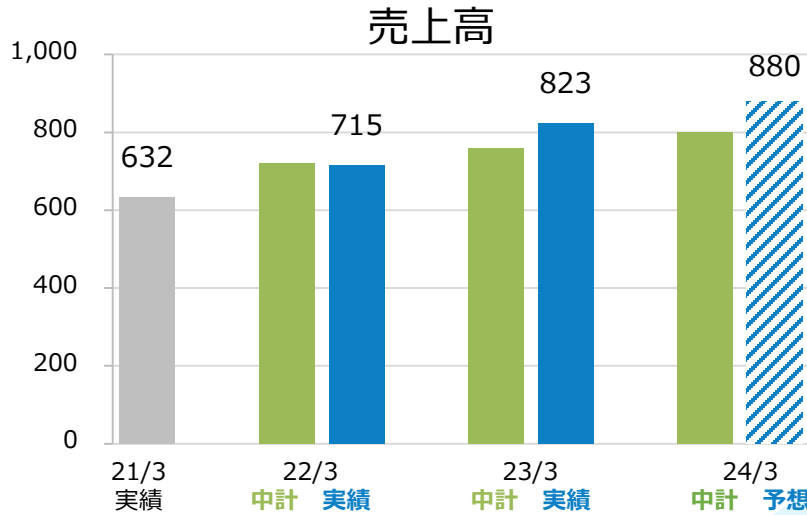
5. 中期経営計画の進捗

(2022年3月期-2024年3月期)

売上高・各利益（連結）

■ 中期経営計画 ■ 利益率

(単位：億円)



5. 中期経営計画の進捗

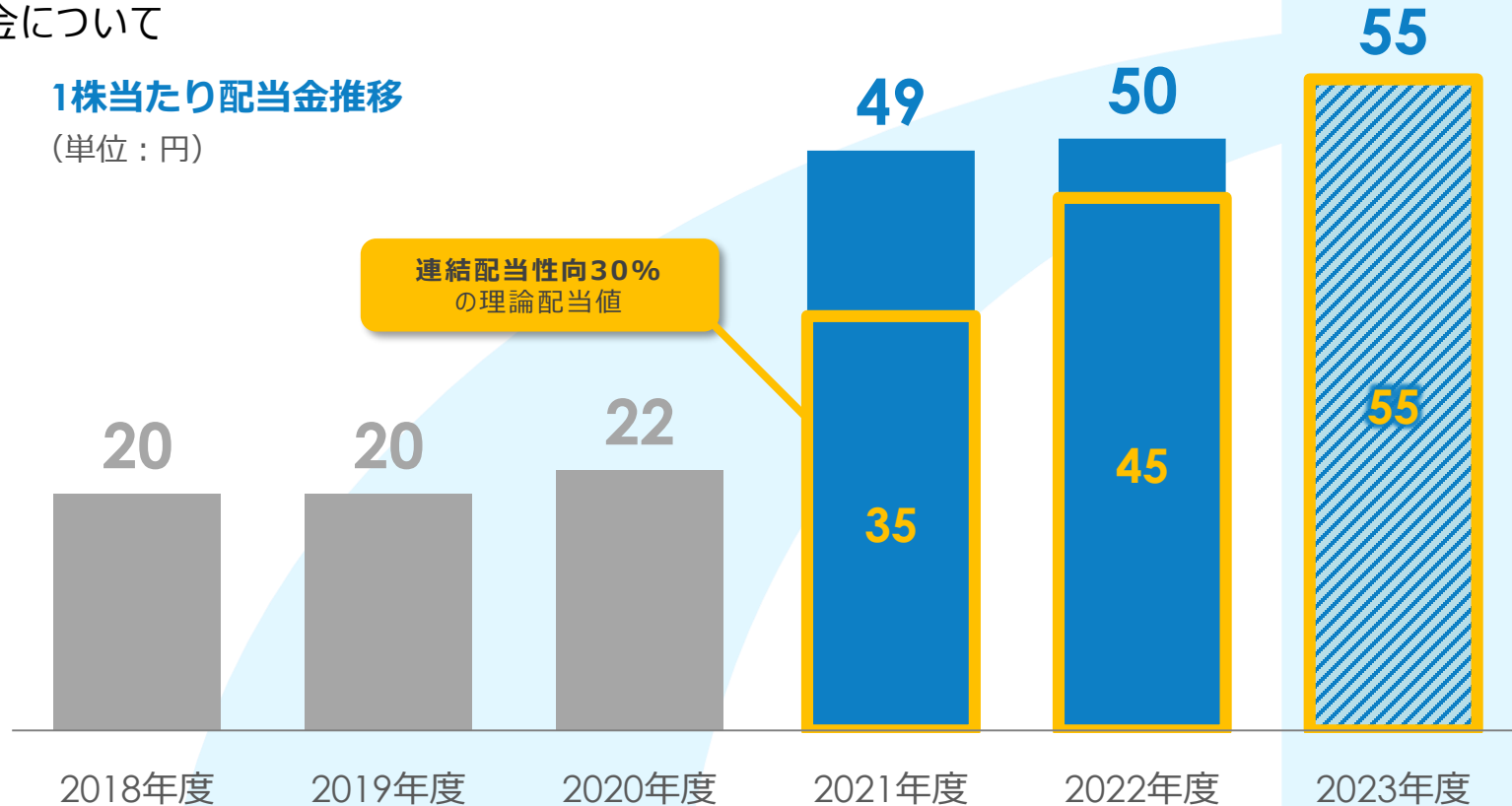
株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

- **連結配当性向30%** を目安とした安定配当を継続
- 1株当たり年間20円を下限 ※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

配当金について

1株当たり配当金推移

(単位：円)



5. 中期経営計画の進捗

「深化」と「新化」全体像



・ CASE 対応事業の拡大

- バッテリーホールドシートの拡販と新構造の開発
- バッテリーセルを効率的に冷却「放熱ギャップファイラー」の開発

・ ライフサイエンス事業の創出

- 液体培地と化粧品原料の用途開発と安全性を追求
- 「RaST-TAS」の有識者会議を開催
専門医が本製品普及に協力することで合意

・ ワイパー事業の強靱化

・ 海外事業の選択と集中

高分子製品（ゴム・樹脂）が生み出すあらゆる機能でクリーンな地球に貢献する

5. 中期経営計画の進捗 “新化”

CASE 対応事業の拡大

「バッテリーホールドシート」の拡販と新構造の開発

バッテリーセルの膨張収縮を最適な力で拘束することで
バッテリーの性能向上に貢献する
「バッテリーホールドシート」

TOYOTA「bZ4X」への採用に続き、複数社へ拡販を計画
さらに、次世代として新構造の開発が進行

バッテリーセルを効率的に冷却 「放熱ギャップフィラー」の開発

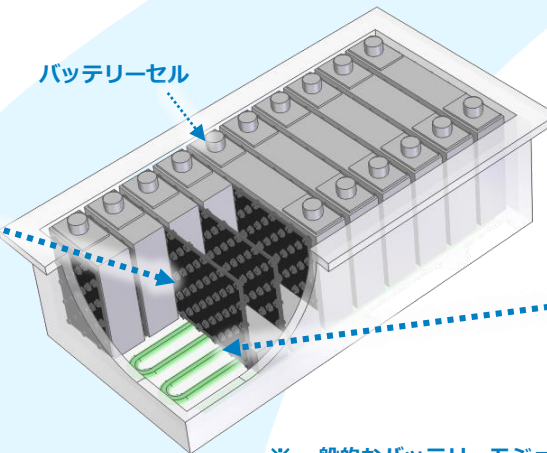
バッテリーセルを効率的に冷却し
バッテリー性能向上に貢献する
「放熱ギャップフィラー」

従来品よりも低密度で軽量化、塗布加工性にも優れ
お客様のコスト低減に大きく貢献
現在、某自動車メーカー様にて評価中

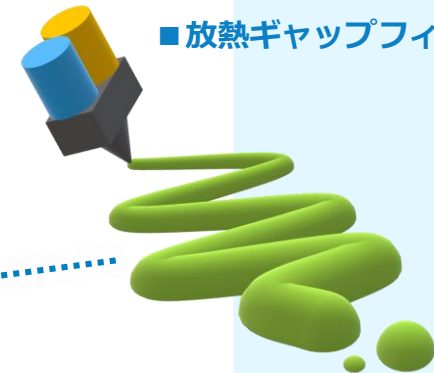
■ バッテリーホールドシート



バッテリーセル



■ 放熱ギャップフィラー



※ 一般的なバッテリーモジュールのイメージ図

次世代電気自動車部品の領域のさらなる拡大

5. 中期経営計画の進捗 “新化”

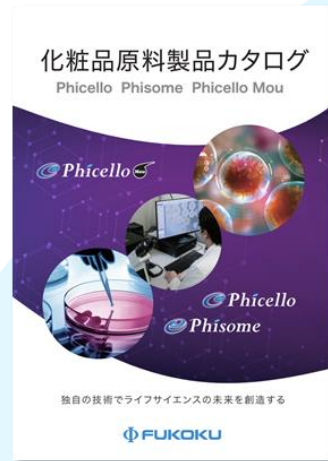
ライフサイエンス事業の創出

液体培地と化粧品原料の 用途開発と安全性を追求

大学・企業・クリニックとの共同研究により
順化培養液の用途開発と安全性の確認を実施

外部機関へ7種の安全性試験を委託し
全ての試験において安全を確認

ナノレベルまで原材料を微細化できる装置を導入し
特長がある製品の開発を開始



「RaST-TAS」の有識者会議を開催 専門医が本製品普及に協力することで合意

愛知医科大学教授 三嶋廣繁先生が発起人となり
アドバイザーボードミーティング※を開催

6名のボードメンバーが
RaST-TASの臨床での有用性を確認し
国内における本製品普及に協力することで合意

※感染症分野を牽引する複数の専門医が一堂に会する有識者会議



愛知医科大学教授
三嶋廣繁先生

ライフサイエンス分野にさらなる力を入れる

5. 中期経営計画の進捗 “深化”

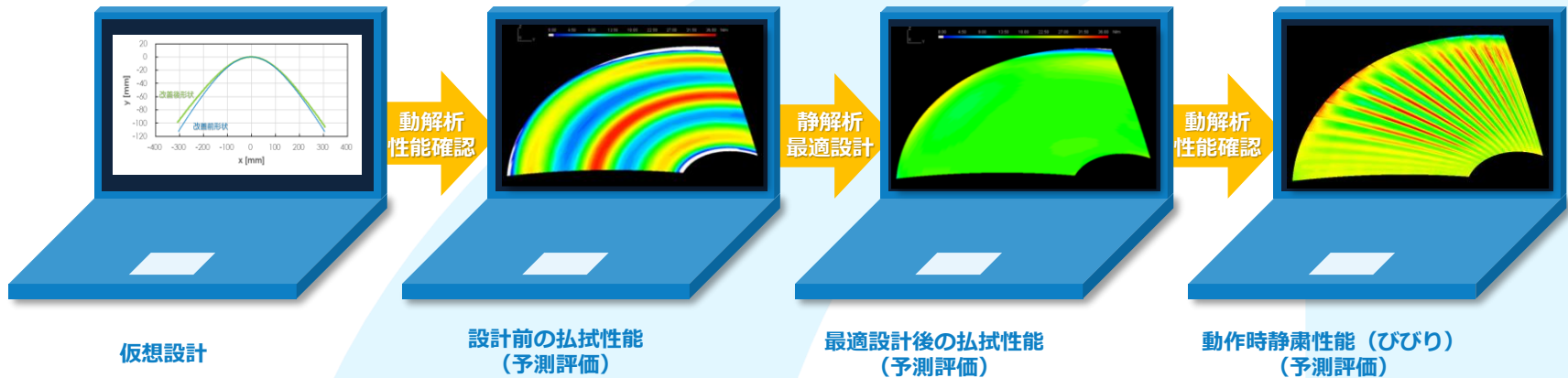
ワイパー事業の強靱化

ワイパー仮想設計ソフト
「FWIP-SIM」※の性能大幅向上



ワイパー開発のプロセスにおいて仮想設計・評価予測を行う事で
共創企業にソリューションを提供するシステム「FWIP-SIM」

従来版を高速&高精度版に深化させることで開発期間をさらに大幅短縮
スピード感が求められるEV開発の競争力を高めるパートナーとして複数の企業様との共創を開始



最適な部品形状・材質を他社よりも速く提供が可能に→更なる拡販の加速

5. 中期経営計画の進捗 “深化”

海外事業の選択と集中

<現状>

<自立後>

<選択と集中のイメージ図>

■ 上海テクニカルセンター本格稼働

研究開発

研究開発

チェコ
100%完了

中国
50%完了

評価

評価

■ アライアンス構築完了
■ 工場閉鎖

金型加工

金型加工

調達

調達

製造

製造

アセアン+インド
75%完了

■ アセアンエリアへの融資等の
資金マネジメント開始

<タイ>

- 量産金型作製開始
量試評価から量産評価までの
一気通貫の自己完結工程構築開始
- タイラボの本格稼働
地域環境に適したゴム配合の設計
評価開始

<インド>

- 鋳物・加工・組立の一貫生産工場の稼働開始

地域性と製品競争力を考慮した選択と集中を計画通り推進

6. プライム市場上場維持基準の適合進捗

6. プライム市場上場維持基準の適合進捗

上場維持基準の適合状況

	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率	1日平均売買代金
基準日	20,000 _{単位以上}	100 _{億円以上}	35% _{以上}	20 _{百万円以上}
2021年 6月30日 (東証による移行基準日)	105,134 _{単位}	92.9 _{億円} (※1)	59.7%	21.8 _{百万円}
2023年 3月31日 (当社事業年度末)	113,243 _{単位}	117.5 _{億円} (※2)	64.3%	32.3 _{百万円} (※3)

(※1) 2021年4月から6月の日々の最終価格の平均値：883.7円
 (※2) 2023年1月から3月の日々の最終価格の平均値：1,038.5円
 (※3) 2022年1月から12月の日々の売買代金の平均値

今後も企業価値向上に努め PBR1.0倍以上の実現を目指す

7. 株主還元

7. 株主還元

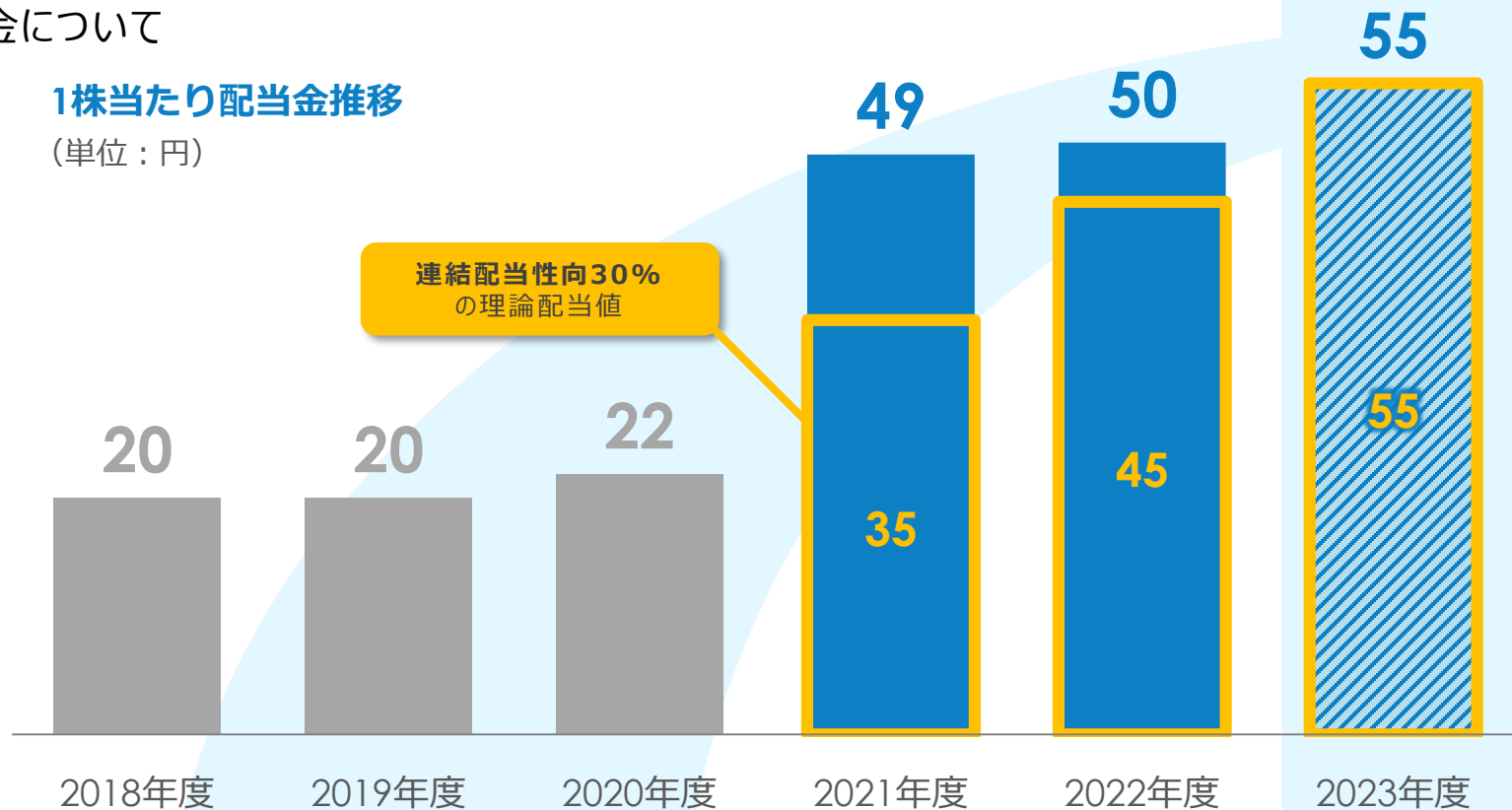
株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

- **連結配当性向30%** を目安とした安定配当を継続
- 1株当たり年間20円を下限 ※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

配当金について

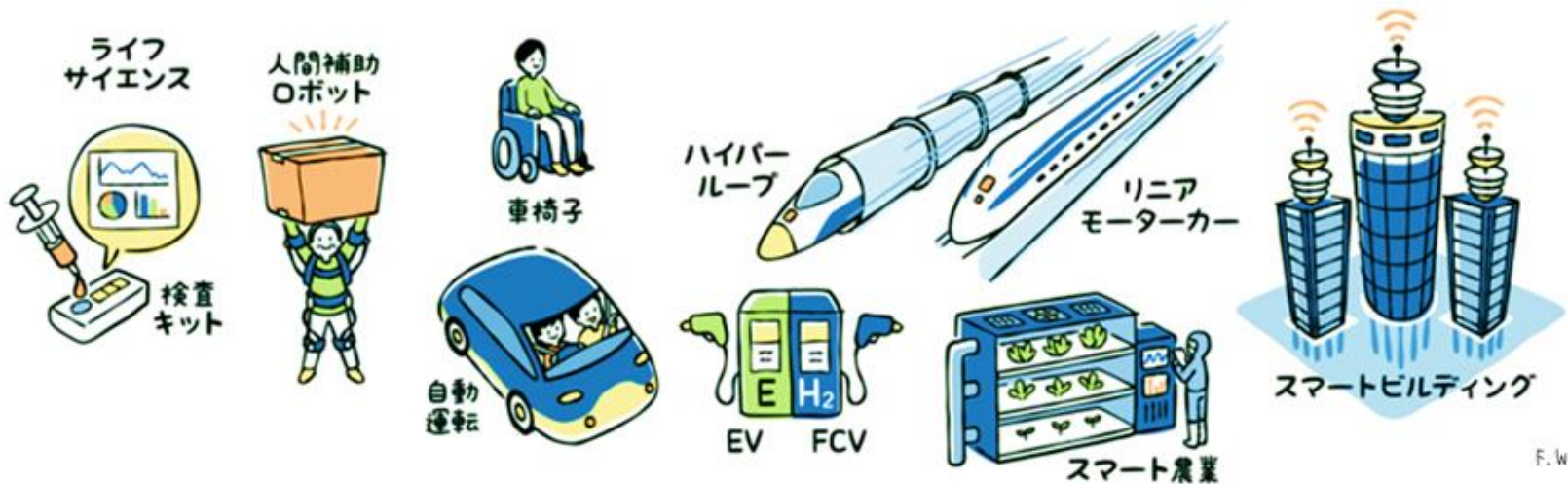
1株当たり配当金推移

(単位：円)





フコクは“ソフトマテリアル”で“あったらいいな”を実現していきます！



F.w



Φ FUKOKU

ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ
今までに無い価値を提案していきます

注意事項

- ◆ 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- ◆ 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものに変更する義務を負うものではありません。

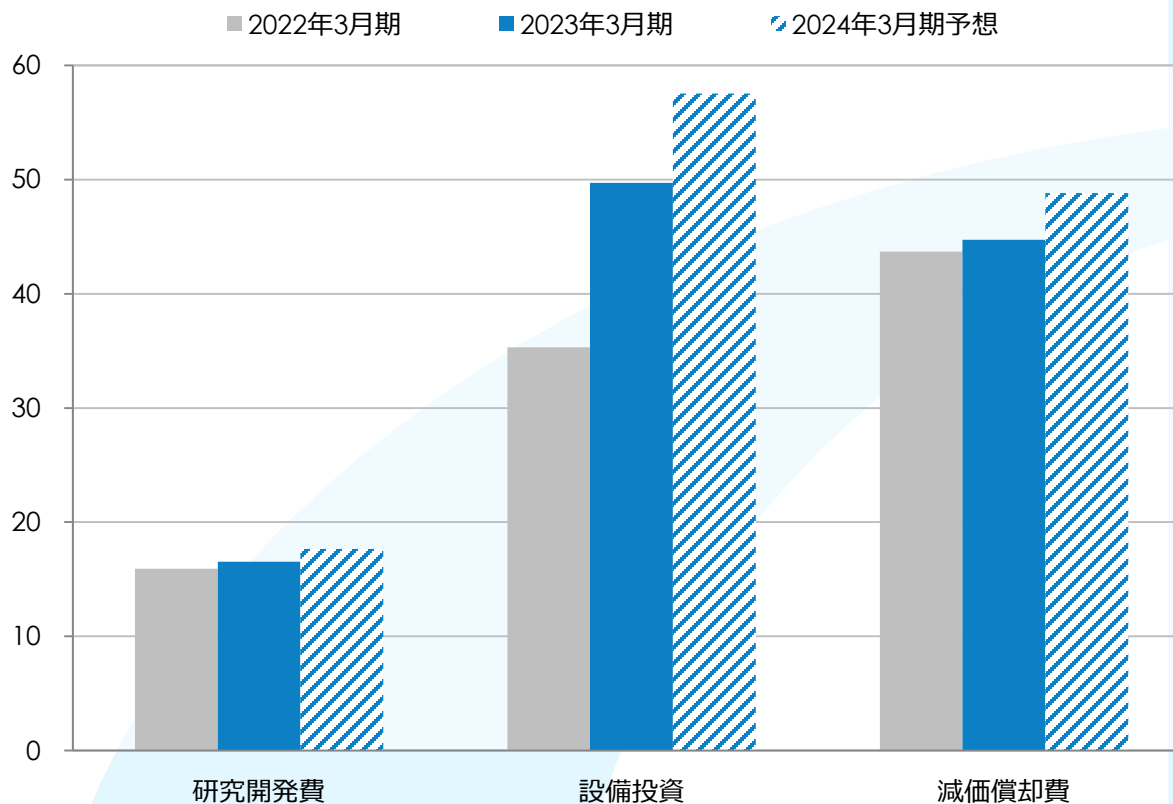
Appendix



1. その他指標

研究開発費、設備投資、減価償却費

(単位：億円)



2. 会社概要

会社概要


 株式会社 **フコク**

事業概要

ゴム製品、金属・合成樹脂製品、
OA・電子機器・医療用具の製造販売 等

証券コード

東京証券取引所 プライム市場 (5185)

設立

1953年 (創業70年目)

本店

埼玉県上尾市

代表者

代表取締役社長 小川 隆

従業員数

連結 4,577名、単体 1,185名 (※)

株主数

16,255人 (※)

拠点・ 関係会社

- ・ フコク単体 : 5工場、2事業所
- ・ 関係会社
 - 連結子会社 : 国内2社、海外14社
 - 持分法適用会社 : 海外1社

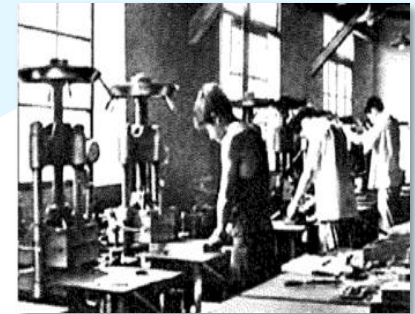


※ 2023年3月31日現在

2. 会社概要

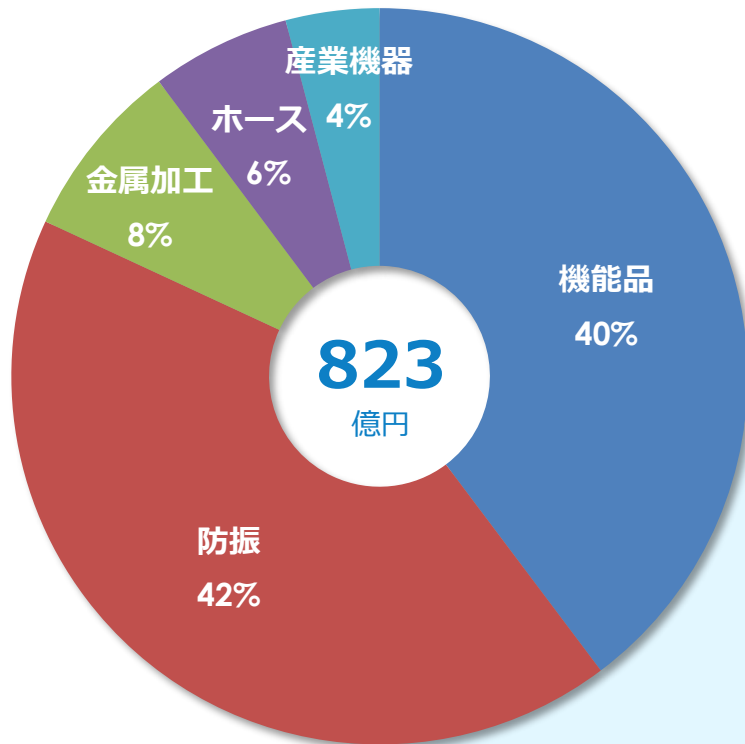
沿革

1953年	12月	創業者の河本 栄一が、 富国ゴム工業株式会社を設立
1956年	4月	ワイパーブレードラバーの技術開発に成功
1972年	9月	末吉工業株式会社に資本参加
1983年	1月	タイ国バンコク市に合併会社タイフコク株式会社設立
1986年	1月	株式会社フコクに商号変更
1994年	10月	日本証券業協会に株式を店頭登録
1996年	2月	株式会社東京ゴム製作所に資本参加
2004年	3月	東京証券取引所 市場第二部に上場
2005年	3月	東京証券取引所 市場第一部に上場
2020年	6月	経済産業省より『2020年版グローバルニッチトップ 企業100選』に当社が選定
2020年	7月	小川 隆が代表取締役社長に就任
2022年	4月	東京証券取引所 プライム市場へ移行



2. 会社概要

事業別売上（2023年3月期 連結）



機能品



ワイパーブレードドラバー



等速ジョイント用樹脂ブーツ



ダイヤフラム

防振



ダンパープーリー



V-ロッド



ビスカスマウント・キャブサスマウント

金属加工




建機用燃料タンク




建機用ドアカバー


産業機器




プリンターローラー



超音波モータ



培養バッグ・培地



細胞培養上清液

ホース



インタークーラーホース

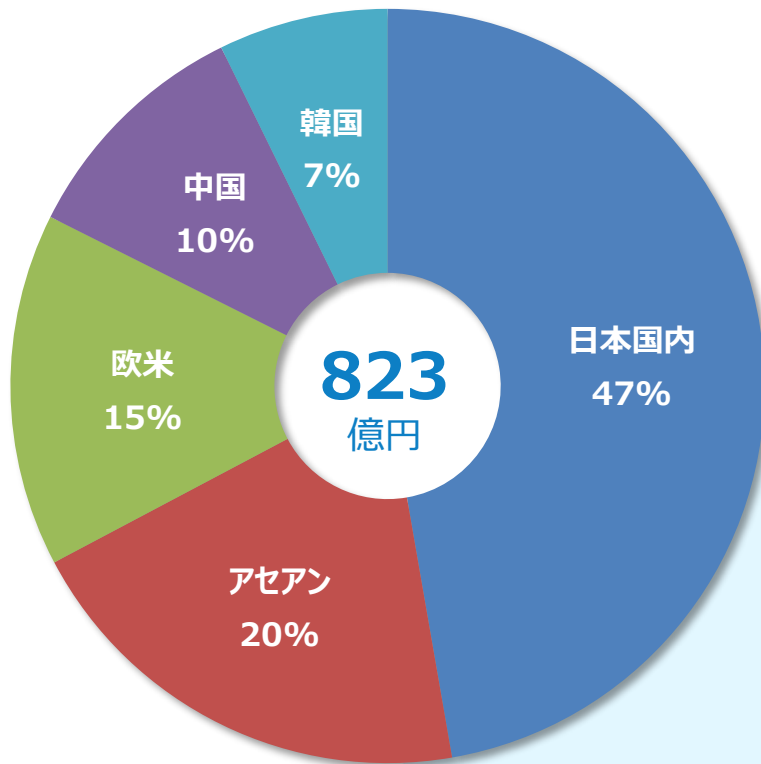


ウォーターホース

2. 会社概要

地域別売上（2023年3月期 連結）

グローバルネットワーク



日本
1953年



インドネシア
1997年



インド
2010年



タイ
1983年



アメリカ
2001年



ベトナム
2011年



韓国
1987年



中国
2001年



メキシコ
2014年

※顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております

2. 会社概要

当社の特徴：多種多様な製品を生産販売



2. 会社概要

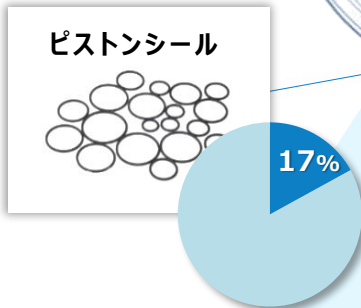
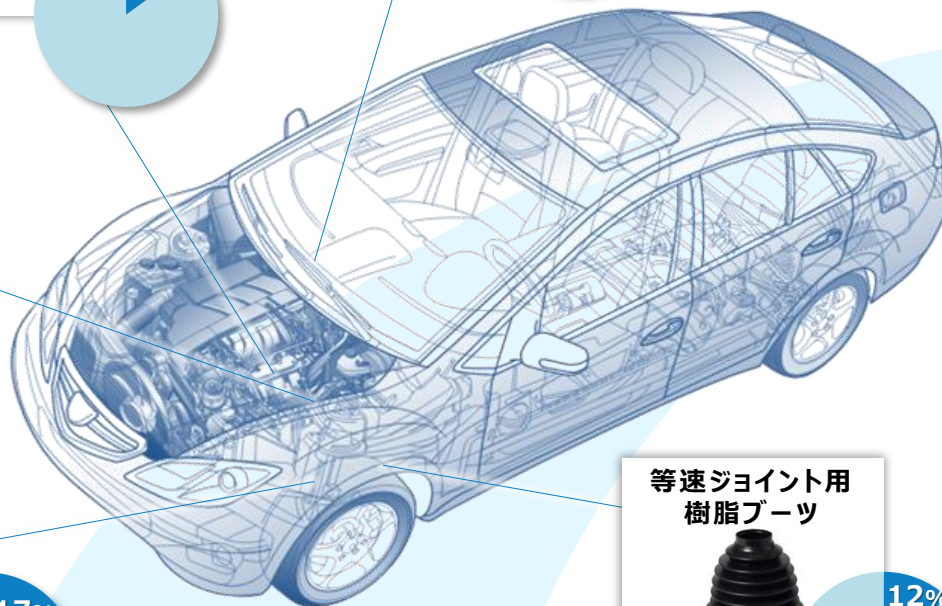
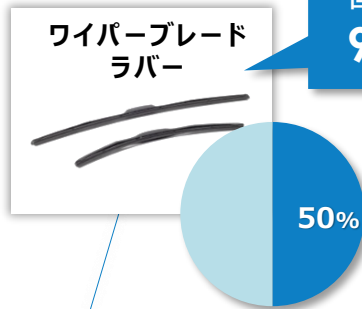
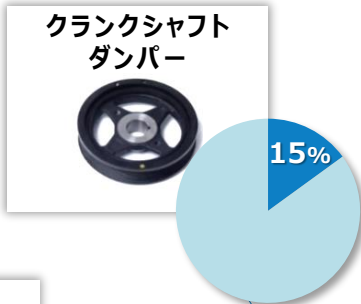
高シェア製品

自動車分野

国内シェア
90%以上

他分野

世界
シェア※
(%)
※当社推計



ニッチな分野で高シェア製品を数多く輩出

2. 会社概要

表彰関連：グローバルニッチトップ企業100選
(2020年6月)

経済産業省より、国際市場開拓に取り組む企業のうち
ニッチ分野で高シェアを確保し良好な経営を
実践する企業として

「2020年版経済産業省

グローバルニッチトップ企業100選」に

選ばれました！

以下審査基準を基に、外部有識者で構成する選定評価委員会の審議を経て選定。

1. 世界シェアと利益の両立
2. 技術の独自性と自立性
3. サプライチェーン上の重要性

